



山(自然)とのふれあいを通じて

日野町林業研究グループ



▲日野町林業研究グループの皆さん

●日野町林業研究グループとは

日野町の約52%は森林です。少し前までは、お風呂を薪まきで沸かすなど私たちの生活は自然と共にありました。しかし、現在、生活様式の変化等に伴い、身近に森林があっても自然とふれあう機会は少なくなってきました。

日野町林業研究グループ(浦田和栄かづえ会長)の皆さんは、森林を身近に感じてもらうため、学校林の整備や氏郷まつり、楽市楽座がくしらくざなどの広報活動、ホンシャクナゲの挿し木研修、さらに若者との山を通じたふれあいなどさまざまな活動をされています。

●現在の課題に対応を

昔は、親子でよく山に入り、所有している山の境界を自然と覚えたり、古道こどうを教わる機会が

特に学校林の整備では、間伐した木や、倒れる危険のあるような木を遊具や、しいたけの栽培学習に利用する取り組み等に協力いただいています。「近年、山は管理が大変などの理由から敬遠されがちですが、本来山は空気の浄化や木材としての活用、さらには水源としての役割など、私たちにとってなくてはならないもの」と語ってくださいました浦田会長。活動を通じて子どもたちに山や森林の大切さを伝えられています。

ありました。が、そういった機会が減少した今、所有している山の境界を知らない方が増えていきます。また、山は人が手を入れないと、すぐに様相を変え、境界の目印にしていた大きな木が枯れてなくなるといったこともあるそうです。

今、境界が分かる間に、GPS機能を使って境界を確立しようとする動きがありますが、すでに境界が分からなかったり、地域で一緒に動けなかったりなどなかなか進まないのが現状です。浦田会長は「山の境界でトラブルにならないためにも、こういった取り組みは必要」と今一度、山のあり方やこうした取り組みの大切さを話してくださいました。



▲「森林などに興味がある方はぜひ一緒に活動しましょう」(挿し木研修でのホンシャクナゲを持つ浦田会長)

平成24年度 近畿ブロック林業グループコンクール 日野町林業研究グループ「最優秀賞」受賞 全国大会へ



▲コンクールでの発表の様子

8月27日(月)28日(火)、奈良市にて近畿ブロック林業グループコンクールが開催されました。このコンクールは、林業技術の向上・発展のため地域で活動を行っている近畿各府県の林業研究グループの代表が集まり、日々の活動事例や成果を発表し、林業グループ相互の発展および資質の向上を図る目的で毎年行われています。今年、滋賀県を代表して日野町林業研究グループ6名が参加し、奥村俊治おおくみとしぢ副会長が活動の報告と事例紹介を発表され、見事最優秀賞を受賞されました。日野町林業研究グループの皆さんは、平成25年2月に開催される全国大会に近畿代表として出場されます。